

事業名：インターンシップ事業

商工労働課 主査（商工労働）

政策	02 明日につながる産業の振興								
施策	04 就業環境の整備								
基本事業	02 職務能力研修の充実								
開始年度	平成14年度	終了年度	平成25年度	実施計画 事業認定	対象	会計区分	一般会計	補助金	

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の高等学校生徒

手段（事務事業の内容、やり方）

行政・教育機関・事業所が連携し、就業体験を実施する。
また、就業体験前には、生徒に対して事前研修を実施。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・学生が在学中に自分の学習内容や進路に関連した職業を体験し、現業観、勤労観を醸成する。
- ・企業の業務内容や求める人材を伝え、学生の意識を知ることができる。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	市内の高等学校生徒数	人	4,747	4,724	4,585	0
対象指標2						
活動指標1	インターンシップ受け入れ事業所数（延べ）	事業所	87	90	58	0
活動指標2	事前研修開催回数	回	4	4	2	0
成果指標1	インターンシップ参加者数	人	124	140	82	0
成果指標2	就業体験に意義があったと思う参加者割合	%	90	91	93	0
事業費(A)		千円	998	1,495	704	0
正職員人件費(B)		千円	2,408	2,806	2,735	0
総事業費(A+B)		千円	3,406	4,301	3,439	0

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験の実施 ・事前研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験の事前研修費用 319千円 ・アンケートの実施費用 266千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
新卒正社員の離職率は年々上昇し、入社3年以内の離職率は中学卒7割・高校卒5割・大学卒3割に達している。	
事業を取り巻く環境変化	
北海道における高校生新卒者の就職率は上昇傾向にあるものの、求職意欲の増進や早期の離職等を防ぐために、適正な職業観を醸成するための継続した取り組みが必要である。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由 根拠
インターンシップ事業は、北海道教育委員会が所管し広く実施されているものであり、江別市においても公共的立場から支援する必要がある。また、将来の職業生活に必要な知識や勤労観・職業観の育成は必要なものである。	
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由 根拠
若年層の就職率低下と離職率増大は、求職者と事業者間に存在する様々なミスマッチが原因である。この問題の解消には、両者が「共通の体験」をすることにより理解を深めていく必要がある。こうした意味で、本事業は貢献度が大きいと言える。	
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由 根拠
働くことの厳しさや楽しさを体験できたことで、今後の就業感をより強く緊張感をもって意識することができ、職業観の醸成につながっている。	
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠
インターンシップ事業は、地域の事業所の協力と理解が必要であり、事業所の繁忙期を避けるなど実施時期の弾力的な運用ができれば、向上する可能性はある。	
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？	
ある なし	理由 根拠
他の就職支援事業と一体的に行うことで効率的な事業実施が期待できる。	